

■総括

全国的に、社会経済情勢の変化に伴う雇用状況の悪化や単身世帯の増加、人間関係の希薄化など地域社会の変化により生活困窮世帯も増加しており、地域における福祉ニーズは多様化し、増加の一途をたどっている。

本会では、こうした状況を深く認識し、地域福祉をさらに推進するため行政等の関係機関、各種団体・専門機関等との連携・協働体制を強化し様々な事業を実施した。常に住民や利用者の立場に立ち、皆が助け合い、支え合いながら安心して住み慣れた地域や自宅で生活できるよう地域福祉事業や介護保険事業に取り組んできた。

平成25年度の重点目標の1点目として、住民参加・協働による地域福祉事業の推進を掲げ取り組みを行った。多様な地域ニーズが増加している中、地域住民の参画と各関係機関との連携を強化した。

2点目の地域における支え合いの仕組みの構築では、介護保険制度等で対応できないニーズへの取組みが課題となっている。公的サービスの提供と共に住民参加によるインフォーマルな支援も必要となっているため、住民参加型のサービスの実施に向けた取り組みを進めた。地域福祉活動推進事業を新たに実施するなど、住民相互の支え合い・助け合いの仕組み作りを推進した。また、地域福祉活動モデル推進事業では、本会と住民が地域課題等に一緒に取り組むことによって連携が図られた。

3点目の地域に根ざした総合相談・援助体制の確立では、問題を抱える世帯や個人においてはその内容が複雑化、多様化している状況にある。他の関係機関と連携が必要なケースも増えているため、総合的に支援できる社協の役割が求められており、職員や相談員の専門性を高めながら適切に対応できる体制づくりに努めた。

4点目の社協会員の加入促進では、事業を通じて会費の目的、使用用途の説明などを行ったものの加入数は昨年度と比べ減少となった。まだまだ説明不十分のところもあるため、会費が貴重な財源になっていることや、住民が会員になっていただくことで自らが地域福祉に参加・参画による「支え合い」となっていることを機会あるごとに周知したい。

5点目の低所得者層への支援の強化では、昨今の雇用悪化による厳しい経済状況の中で、生活費等の資金のことで相談にみえるケースが年々多くなっている。最近では複合的な課題を抱えたケースが多かったため、住民にとって身近な相談機関として丁寧な対応に心がけ、各関係機関と連携しながら取り組んだ。

6点目の透明性、中立性、公平さのある運営の確立では、地域住民の代表である理事が運営にあたり、理事会の開催前には正副会長会議において協議した上で議案を上程し

た。また役員監査は年2回実施し、公認会計士による指導も月1回実施している。事業計画、予算、事業報告、決算は社協だよりやホームページで全市民に公開している。

7点目の中長期の経営計画と新たな組織体制の確立については、毎月1回、法人経営会議を開催し、「増収と経費削減」を目標に取り組んだ。平成25年度からは各事業所の管理者も輪番制で出席し、現場の状況を報告して業務改善に取り組んだ。また、職員採用試験を2回実施して専門職の確保に努めた。

8点目の人材育成と教育システムの確立では、福祉の基盤は人材であり、質の高いサービスを提供するために、職員にはヒューマンスキルと高い専門性が求められている。外部研修参加の他、内部研修として新任研修、交通安全研修、腰痛予防教室、メンタルヘルス研修など多方面にわたって研修の機会を提供し職員がやりがいと誇りを持って従事できる環境の整備に努めた。また、内部登用試験を実施し人材の確保やモチベーション維持につなげた。

職員の離職率は8%台となっている。また、育児休業は対象となっている職員10名全員が取得しており、取得しやすく、また復帰しやすい職場環境が定着している。全職員を対象とした面接を年1回実施しており、個別指導を行うとともに職員の意見を聴く機会としている。定年退職者には、高年齢雇用継続を説明して本人の意思を確認している。

1、会務の運営

定款に基づき、適正な法人運営を図るため、理事会、評議員会を開催し、各種規程の見直しや住民参加の事業推進に取り組んだ。内部監査として、役員監事3名により財務と業務の監査を年2回実施し、外部監査としては公認会計士から月に1回指導を受け、透明性のある会計処理と財務状況の分析を行った。

【理事会の開催】

開催日	会場	出席者	案件
平成25年 5月28日	北秋田市森吉生活支援ハウス	理事13名 監事 1名	① 定款の変更について ② 平成24年度事業報告並びに収支決算について ③ 平成25年度第1次補正予算(案)について

平成25年11月27日	北秋田市森吉生活支援ハウス	理事12名 監事3名	① 就業規則の改正について ② 平成25年度第2次補正予算(案)について
平成26年2月17日	北秋田市森吉生活支援ハウス	理事15名 監事3名	① 訪問看護事業、居宅療養管理指導事業の実施について ② 定款の変更について
平成26年3月24日	北秋田市森吉生活支援ハウス	理事14名 監事2名	① 規程の改正について ② 平成25年度第3次補正予算(案)について ③ 定款の変更について ④ 平成26年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について

【監事会の開催】

開催日	会場	出席者	案件
平成25年5月22日	北秋田市森吉生活支援ハウス	3名	① 平成24年度事業報告並びに収支決算について
平成25年11月29日	北秋田市森吉生活支援ハウス	3名	① 平成25年度上半期事業報告並びに収支決算について

【評議員会の開催】

開催日	会場	出席者	案件
平成25年5月28日	北秋田市森吉生活支援ハウス	評議員24名 監事1名	① 定款の変更について ② 平成24年度事業報告並びに収支決算について ③ 平成25年度第1次補正予算(案)について
平成25年11月27日	北秋田市森吉生活支援ハウス	22名	① 就業規則の改正について ② 平成25年度第2次補正予算(案)について
平成26年2月17日	北秋田市森吉生活支援ハウス	18名	① 訪問看護事業、居宅療養管理指導事業の実施について ② 定款の変更について

平成26年 3月24日	北秋田市森吉生活支援ハウス	23名	① 平成25年度第3次補正予算(案)について ② 定款の変更について ③ 平成26年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について
-------------	---------------	-----	--

【正副会長会議】

開催日	会場	出席者	案件
平成25年 5月23日	北秋田市地域福祉センター	4名	① 5月28日開催の理事会、評議員会に上程する議案について
平成25年11月25日	北秋田市地域福祉センター	4名	① 11月27日開催の理事会、評議員会に上程する議案について
平成26年 3月19日	北秋田市地域福祉センター	3名	① 3月24日開催の理事会、評議員会に上程する議案について

【役員・評議員研修】

開催日	会場	出席者	内容
平成25年 8月19日	秋田キャッスルホテル	4名	社会福祉法人役員研修会
平成26年 2月26日	秋田キャッスルホテル	3名	社会福祉法人役員研修会Ⅱ

【各地域福祉センター運営委員会】

開催日	地区名	会場	出席者	案件
平成26年1月17日	合川	あいかわ地域福祉センター	10名	① 委員の委嘱について
平成26年1月20日	阿仁	北秋田市役所阿仁支所	9名	② 委員長・副委員長の選任について
平成26年1月21日	森吉	北秋田市森吉生活支援ハウス	7名	③ 平成25年度上半期事業報告並びに収支の状況について
平成26年1月27日	鷹巣	北秋田市地域福祉センター	15名	④ 平成26年度事業計画に伴う地域課題について

【苦情解決第三者委員研修会】

開催日	会場	出席者	内容
平成25年10月4日	北秋田市森吉生活支援ハウス	9名	① 報告「苦情解決第三者委員相談日設置の結果について」 ② 相談・苦情の内容及び対応結果について ③ 意見交換

【たすけあい資金運営委員会】

開催日	会場	出席者	内容
平成26年3月7日	北秋田市地域福祉センター	5名	① 貸付状況・償還状況の報告 ② 滞納者への督促状況について ③ 償還免除について

【法人経営会議】

毎月1回、「増収と経費削減」に向け、幹部職員、現場の職員が一堂に会し協議している。職員の経営感覚の醸成、意識改革につながっている。

【支所長会議】

毎月1回、各支所長、部長、施設長等の管理職が出席し、各支所施設の情報の交換
伝達及び事務事業の調整を行っている。

【運営会議】

毎月1回～2回、各センター（事業所）、各施設において情報の共有と連絡調整を
行っている。法人の方針や事業内容の周知がなされている。

【苦情解決会議】

毎月1回、各センター（事業所）、各施設において事務局、現場の職員が一堂に会
して利用者の方からの苦情に対して真摯に取り組む体制づくりに努めている。職員の
リスクに対する意識を高め、リスクマネジメントの徹底を図った。苦情とヒヤリハッ
トは小さな事柄でも常に報告し、全職員がサービスの向上と改善、再発防止に努めて
いる。

【看護専門部会】

毎月1回開催し、各事業所の看護師が最新の医療について学び、情報交換を行って
いる。専門職に必要とされる知識と技術を高め、看護師のスキルアップにつなげるよ
う努めている。

【感染症対策委員会】

毎月1回、各事業所の看護師と事務局をメンバーに委員会を開催している。感染症
について知識を深めるために専門家を講師として勉強会を実施し、最新の情報を職員
へ落とし込み、危機意識を高めるようにしている。職員の感染症予防の一環として
全職員を対象にインフルエンザの予防接種を実施している。

【安全衛生委員会】

毎月1回、労働災害防止の取り組みや職員の健康管理を目的に安全衛生委員会を開
催している。職員の危険又は健康障害を防止するための、基本となるべき対策を衛生
管理者、産業医の指導を受けて取り組んでいる。

【各種委員の派遣状況】

グループホームふなみ 管理者 成田啓悦を秋田県社会福祉協議会主催の「認知症介
護実践者研修」（第1回）（第2回）、認知症対応型サービス事業管理者研修、認知症介
護実践リーダー研修の講師として派遣している。

開催日	会議等名称	会場	内容
平成25年 4月11日	第1回カリキュラム 検討委員会	秋田市 秋田県社会福祉会館	カリキュラムの策定
平成25年 6月14日	平成25年度 認知 症介護実践者研修①	秋田市 秋田県社会福祉会館	指導「実習課題の設定・実 習の心構え」
平成25年 6月17日 ～ 19日	平成25年度 認知 症介護実践者研修①	グループホームふなみ	実習「施設実習での指導」 9名
平成25年 7月 2日	平成25年度 認知 症介護実践者研修①	グループホームふなみ	指導「中間報告会」
平成25年 8月 7日	平成25年度 認知 症介護実践者研修①	秋田市 秋田県社会福祉会館	指導「実践課題報告会」
平成25年 9月13日	平成25年度 認知 症介護実践者研修②	秋田市 秋田県社会福祉会館	指導「実習課題の設定・実 習の心構え」
平成25年 9月17日 ～ 19日	平成25年度 認知 症介護実践者研修②	グループホームふなみ	実習「施設実習での指導」 12名
平成25年10月 2日	平成25年度 認知 症介護実践者研修②	グループホームふなみ	指導「中間報告会」
平成25年10月 4日	平成25年度 認知 症介護実践リーダー 研修	秋田市 秋田県社会福祉会館	講義「介護現場の認知症介 護のあり方に関するアセス ト」「研修参加中の自己課題 の設定」「実践リーダーの 役割と視点」「高齢者支援 のための家族支援」
平成25年10月22日 10月23日	平成25年度 認知 症介護実践リーダー 研修	グループホームふなみ	実習「施設実習での指導」 3名
平成25年11月 5日	平成25年度 認知 症介護実践リーダー	グループホームふなみ	指導「中間報告会」

	研修		
平成25年11月8日	平成25年度 認知 症介護実践者研修②	秋田市 秋田県社会福祉会館	指導「実践課題報告会」
平成25年12月13日	平成25年度 認知 症介護実践リーダー 研修	秋田市 秋田県社会福祉会館	指導「研修のまとめ」
平成26年2月27日	第3回カリキュラム 検討委員会	秋田市 秋田県社会福祉会館	カリキュラムの見直し等

【市社協全体の職員研修会の開催】

開 催 日	研 修 名	内 容
平成25年 4月1日 } 2日 } 7月1日 } 2日 } 11月5日 } 6日 }	新任職員研修	職務の遂行に役立つ基礎知識と基本能力を習得することを目的として開催。職員採用ごとに2日間の研修を、3回実施。
平成25年 7月17日 7月18日 7月19日	全戸訪問活動事前研修会	全戸訪問活動を実施するにあたっての進め方、社協の事業等を学ぶ。 職員367人参加
平成25年10月16日 } 10月17日 } 12月 2日 } ~6日 } 12月12日 } ~20日 }	普通救命講習 (合川、森吉、阿仁) (ケアタウン) (鷹巣)	北秋田市消防署職員より普通救命講習を受講。 職員465人参加
平成25年10月21日 10月23日	交通安全教室	日頃の自分の交通マナーや知識を再確認し、社協職員としての交通安全に関する意識を高めた。 講師 北秋田警察署 職員273人参加
平成25年11月15日 11月19日 11月29日	腰痛予防教室	講師 運動指導士 関村 幸子 氏 内容 「腰痛予防改善・運動不足解消対策」 職員285人参加
平成26年 3月12日	メンタルヘルス研修会	講師 寺田心理教育研究所 寺 田 誠 氏 職員51人参加

- ※ その他、各センター、各施設、各事業所においても毎月1回、研修計画を基に勉強会を行い、資質向上に努めている。
- ※ 職員にとって確かな知識と高い技術を身につけることは不可欠であり、職員の資格取得を奨励している。結果として、平成25年度においては新たに社会福祉士1名、介護福祉士12名、介護支援専門員3名が合格した。

2、総合企画・啓発活動

① 第9回北秋田市社会福祉大会

・開催日 平成25年10月11日（金）

・会場 北秋田市文化会館

・参加者 600人

・テーマ 「地域の絆はみんなの笑顔から」

・実践報告 「私たちの力で地域を元気に！」

きたあきたお土産プロジェクト！」

秋田北鷹高等学校 家庭クラブ

・活動報告 「地域福祉課題の掘り起こしと社会福祉協議会の役割」

北秋田市社会福祉協議会 地域福祉部長 松橋恵子

・講演 「笑って笑って、お元気に！」

桂 三若 氏

式典では福祉活動に貢献した2団体と32名を表彰したほか、秋田県共同募金会長表彰の伝達も行われた。

第2部の実践報告では、高校生による地元食材を使用して作った「ししとうカレー」の開発で地域を元気にする活動を発表していただき、活動報告ではあらためて社会福祉協議会の役割を報告した。

講演では落語家の桂 三若 氏がテーマに沿った形で、参加者に笑いや元気を与えてくれた。参加者からは「講演が非常によかった、やはり笑顔は元気のもとだ」などの感想が寄せられた。

② あいかわ福祉の集い

・開催日 平成25年11月30日（土）

・会場 合川農村環境改善センター

・参加者 250人

住民参加の福祉活動をめざして開催されている。共同募金の配分金で実施されている事業であることのPRも含め、福祉課題を考える契機になっている。

③ ふれあい夏祭り

・開催日 平成25年8月3日（土）

・会場 あいかわ地域福祉センター

・参加者 300人

中学生をはじめ地域住民、ボランティアの協力のもと開催されている。共同募金の配分金で実施されている事業であることのPRも含め、連帯感を持った地域づくりを考える契機になっている。

④ 「ケアタウンたかのす」における啓発活動

開催日	事業名	内容
平成25年 5月 1日 ～5日	桜まつり	植樹した桜の開花に合わせて歌謡ショー、出店、施設内の飾り付けなどを行い季節感を味わっていただいた。
平成25年 6月 6日	花の広場	地域のボランティアや近隣の保育園、小中学生の参加を得て施設敷地内の花壇に植栽を実施した。また標語コンクールを行い優秀作品を表彰した。参加者 約220人
平成25年 8月25日	夏祭り	出店、イベント、緊急車両展示の他、近隣地区の親子会や婦人会の協力を得て御輿、盆踊りなどを行い地域の方々との交流を深めた。親しまれる施設を目的とした事業の一環として定着させたい。
平成25年 9月12日	敬老式	老健ご利用者を対象に、式典の他七日市保育園児の遊技披露、来賓及びご家族との会食により、敬老を祝す行事として開催した。
平成25年12月21日	忘年会	会食や演芸を楽しんでいただき、スライド上映で一年を振り返りながら、ご利用者及びご家族、地域の方々の交流の場としている。
月1回	ケアタウンだより発行（1回450部発行）	施設内の行事や生活状況などをご家族始め関係者へお知らせしながら、開かれた施設として情報の発信に努めている。

随時	施設見学の受け入れ ボランティア・実習 の受け入れ	施設への理解を深めていただくために、見 学受け入れを随時行っている。 251人 児童、生徒、地域住民等のボランティア及 び専門技術の実習などを受け入れている。 308人
----	-------------------------------------	--

⑤ 「もろび苑」における啓発活動

開催日	事業名	内容
平成25年 8月 9日	納涼祭	地域住民の参加も多く、ボランティアの協 力も得て定着した行事になっている。 参加者 300人
平成25年 9月25日	運動会	入所者の他、デイサービス利用者、自治会 老人クラブ、保育園、小学生も参加し地域 の世代間交流の場にもなっている。 参加者 176人

⑥ はり・あんま施術奉仕

- ・開催日 平成25年8月28日～30日
- ・会場 合川ことぶき荘
- ・延利用者 50人

秋田県立盲学校の生徒4名、先生2名による施術奉仕が行われた。長年行われて
いるため、住民の方々は心待ちにされており、大変喜ばれた。しかし、年々、生徒
数の減少が続いていることや住民の方も高齢となり、会場に来るまでの交通手段が
課題となっている。

⑦ 社協だよりの発行

- ・発行月 平成25年4月、6月、8月、10月、12月、
平成26年2月（年6回）
- ・部数 14,400部
- ・内容 地域の福祉活動、在宅福祉サービス、介護サービス、心配
ごと相談、共同募金等、読みやすい社協だよりにして、活
字の大きさやレイアウトの工夫に取り組んだ。

⑧ 苦情解決第三者委員相談日

- ・開催日 平成25年7月16日～18日
- ・会場 各事業所15カ所
- ・相談者 28人

各事業所に第三者委員が出向いて、相談する側の心情に配慮し、自己紹介をしながら苦情を申し出やすい環境整備に取り組んだ。第三者委員が普段の会話の中から集約したことによって、様々な意見を伺う機会となった。

3、福祉を支える人づくり

① 介護職員初任者研修

- ・開催日 平成25年9月9日～10月31日
- ・会場 北秋田市地域福祉センター、補助器具センター他
- ・受講生 14名

平成25年度より、法施行規則の改正に伴い「介護職員初任者研修」と変更になった。北秋田地域における介護、福祉を担う人材育成の一翼を担うとともに、受講者には個別に面接を行い就労支援を実施した。受講者14名の方全員が資格取得となり、14名のうち新たに就業に結びついた方は9名だった。

② 福祉体験学習

<高齢者・障害者疑似体験学習、車椅子の操作>

- ・開催日 平成25年6月17日
会場 合川小学校
参加者 合川小学校6年生 10人
- ・開催日 平成25年10月28日
会場 綴子小学校
参加者 綴子小学校4年生 24人
- ・開催日 平成25年11月7日
会場 鷹巣小学校
参加者 鷹巣小学校4年生 39人

③ ボランティアスクール

- ・開催日 平成25年8月8日～9日（1泊2日）
- ・会場 ケアタウンたかのす・サポートハウスたかのす（宿泊場所）

・参加者 小学生 7名

夏休みを利用し、宿泊体験型のボランティアスクールを開催した。施設を利用している高齢者や障がい者とのふれあいを通じ、福祉の心を醸成する機会となった。

④ 福祉教育応援事業

地区名	年度	
	件数	平成25年度
たかのす	件数	9
	助成金額	350,000
あいかわ	件数	4
	助成金額	160,000
もりよし	件数	3
	助成金額	120,000
あ に	件数	3
	助成金額	120,000
合 計	件数	19
	助成金額	750,000

北秋田市内の小、中、高等学校の児童・生徒の福祉に対する理解と関心を深め、地域に根ざした福祉教育を実践していただくために平成25年度より統一した助成を行っている。今後は、各学校の取組をまとめた冊子を配布して事業の周知に努めていきたい。

⑤ 地域福祉活動支援事業

地区名	年度	
	件数	平成25年度
たかのす	件数	14
	助成額	469,000
あいかわ	件数	12
	助成額	415,000
もりよし	件数	16
	助成額	883,000
あ に	件数	12
	助成額	448,500
合 計	件数	54
	助成額	2,215,500

合川地区で行っていた事業を平成25年度から全市を対象に事業を実施。このことによって、自治会が主体的に地域福祉活動に参画しようとする意識が広がった。今後は定期的に訪問をして状況を確認するとともに、活動を広げるためにリーダー養成研修等の開催の実施を検討。

⑥ 地域福祉活動モデル自治会推進事業

七日市本郷自治会をモデル対象に実施。社協職員も活動推進委員のメンバーに入り、地域課題等と一緒に取り組み、地域住民の希望されるサロン開催に向けて活動を行った。

活動推進委員会9回、研修会等2回、危険箇所点検、火祭の参加、施設めぐりなどを実施し、進めていく中で関係団体との連携が図られ仕組みづくりが確立された。

⑦ ボランティア団体活動助成

公募によるボランティア市民活動応援事業としてプレゼンテーションを行い34団体35事業について2,128,197円を助成した。共同募金の配分が活動資金として有効に活用され、住民の理解や協力が得られるように努めている。今後も地域福祉への関心を高め、活動への参加層を広げる運動を展開していきたい。また、ボランティア保険には485件の加入があった。

⑧ 世代間交流

- ・鷹巣地区の児童館（5館）に通う児童と市内の7施設に入所している高齢者がコースターづくりや、手あそびと踊りなどで交流を深めた。
児童の高齢者を敬う心の育成と、高齢者には生き甲斐を感じてもらうことができた。
- ・子育てサポートハウスに通う親子と鷹巣地区の老人クラブの会員が共同でだまっこ作り交流会を開催し、昔ながらの料理の伝承、昔遊びで三世代40名が交流した。三世代で交流する機会が少ない若い母親世代には大変喜ばれている。

⑨ 除雪ボランティア活動

地区名	団体名	実施世帯
たかのす	秋田北鷹高校 236人	23世帯
	比内養護学校鷹巣分校高等部51人	17世帯
あいかわ	合川中学校 68人	6世帯
	秋田県民生協会 10人	2世帯
あに	阿仁中学校 36人	4世帯

除雪が困難な一人暮らし高齢者の方、障がい者世帯の方々から大変喜ばれた。学生は、地域のために活動をすることによって、人の役に立てる喜びや相手を思いやる気持ちが育ち、よい経験になった。

また、除雪時は毎年自治会、民生委員児童委員からも協力をいただいている。

⑩ 北秋田市災害ボランティアセンター・東日本大震災被災地支援活動の報告

災害ボランティアセンター・東日本大震災被災地支援の活動を報告することにより、参加者の防災意識が高まった。また、地域での支え合い、たすけあいなどの重要性を再認識させられた。

実施日	会場
平成25年7月17日 ～ 18日	17日 宮城県大崎市 鎌田記念ホール 18日 宮城県角田市 角田市ホクプラザ (宮城県ボランティアセンター担当者課題 共有会議)
平成25年10月31日	浄運寺 (ビハーラセミナー対象)
平成26年 1月25日	北秋田市中心公民館 (ボランティアグループ 白鷹の会対象)

4. 健康と生きがい、仲間づくり活動の推進

① ふれあいいいききサロン

年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
地区名					
たかのす	開催回数	58	56	56	56
	参加実人員	139	131	131	106
	延参加者数	1,151	1,035	1,035	919
あいかわ	開催回数	106	106	106	72
	参加実人員	68	82	85	32
	延参加者数	809	878	1,035	561
もりよし	開催回数	200	127	202	44
	参加実人員	206	185	189	117
	延参加者数	1,842	1,630	1,880	614
あ に	開催回数	110	111	100	0
	参加実人員	217	278	252	0
	延参加者数	1,992	1,830	1,739	0
もろび苑	開催回数	365	365	365	365
	参加実人員	19	16	7	3
	延参加者数	585	436	238	72
合 計	開催回数	839	765	829	537
	参加実人員	649	692	664	258
	延参加者数	6,379	5,809	5,927	2,166

※ 平成25年度の実績は、社協主催のいきいきサロンのみ計上

高齢者の閉じこもり防止・生き甲斐づくりとしての役割や地域住民が気軽に参加できる場として参加者から喜ばれている。地域福祉活動支援事業を活用し、自治会や町内会、民生委員児童委員等が主体となって運営支援を行っているサロンもある。

また、参加者の高齢化はあるものの、参加することによって身体機能の低下防止につながっている。

② 介護予防教室

地区名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
たかのす	開催回数	26	37	22	16
	参加者数	634	622	456	322
あいかわ	開催回数	36	43	32	40
	参加者数	469	537	384	503
もりよし	開催回数	20	5	11	0
	参加者数	266	50	95	0
あ に	開催回数	3	6	3	8
	参加者数	58	138	50	134
合 計	開催回数	85	91	68	64
	参加者数	1,427	1,347	985	959

住民の関心の高い認知症への理解、転倒予防、健康体操、歯の健康、介護保険制度、福祉用具等をテーマに自治会やグループを対象に地域の会館等を会場に開催した。地域に出向くことによって、参加者から常日頃困っていることを話してもらい機会にもなり、個別課題発見の場にもなっている。今後も定期的な実施に努めていきたい。

③ 介護教室

市内全域を対象に開催して14人の参加があった。参加者からは好評で学んだことを実践したとの声もあった。計画では各地区毎の開催で年4回の予定だったが達成できなかったため、今後は計画的に実施したい。

④ 認知症ケア講座

・会 場 各いきいきサロン会場、老人クラブ、自治会・町内会など
年間を通して実施

・内 容 講師 グループホームふなみ管理者 成田 啓悦

秋田県認知症介護指導者である社協職員が講師となり、地域住民の認知症に対する理解を深めた。参加者は地域住民として自分にできることを考える契機になった。

⑤ 介護者のつどい

在宅で介護している方たちを対象に平成25年度は2回開催し、37人の参加があった。日頃の疲れを癒したり、介護者同士が悩みを語り合いながら交流を深めることができ参加者から喜ばれた。今後は、開催場所や参加者の交流・意見交換の持ち方を検討し、より介護者がリフレッシュできる内容としたい。

⑥ 一人暮らし等高齢者交流会

地区名	開催日	会場	参加者
たかのす	平成25年 2月26日	買い物ツアー	7人
あいかわ	年11回	ことぶき荘・自治会館他	延206人
もりよし	年 9回	買い物ツアー、保育園児交流	延183人
あ に	年 3回	買い物ツアー	27人

高齢者相互の交流を深め、社会参加と孤独感の解消を図ることを目的に地域の民生委員児童委員、ボランティアの協力を得て実施している。参加者には好評であり、もっと多くの方が参加できるよう事業の周知に努めたい。

また、ふだん一人で買い物に出かけることが困難な高齢者を対象に買い物支援を実施して喜ばれた。

⑦ 高齢者夫婦世帯交流事業

「あいかわ地区」

- ・開催日 平成26年3月3日
- ・内容 秋田魁新報社「印刷センター」を見学して、昼食交流会や秋田市内でのショッピングを楽しみながら交流を深めた。
- ・参加者 10名

「もりよし地区」

- ・開催日 平成25年10月5日
- ・内容 田沢湖の紅葉ツアーをしながら、情報交換を行い交流を深めた。
- ・参加者 25名

⑧ 障がい者宿泊体験事業

- ・開催日 平成25年8月24日～25日
- ・内容 在宅での自立を支援するため、買い出しや調理実習を行うとともにサポートハウスにてバリアフリー住居宿泊体験を行った。
また、スポーツ・ゲームで交流を深めた。

- ・参加者 6名

⑨ 当事者団体の支援

老人クラブ連合会、身体障がい者協会、手をつなぐ育成会、遺族連合会等の事務局を担当した。活動を支援して健康と生きがい、仲間づくりを推進した。

⑩ 除雪機及び福祉車両貸出事業

福祉車両は様々な団体に活用していただいたが、除雪機の貸出は積雪が少なかった影響もあり実績は1件となった。除雪機の貸出に関しては、住民に周知を図っていききたい。

- ・除雪機 貸出件数 1件
- ・福祉車両 貸出件数 47件 883人

5、地域福祉活動の推進

① 全世帯訪問活動

年度 地区名		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		たかのす	6,600	6,601	6,745
あいかわ	訪問世帯数	2,300	2,074	2,115	2,020
もりよし		2,100	2,111	2,059	2,032
あ に		1,300	1,285	1,233	1,234
合 計		12,300	12,071	12,152	11,972

7年目になる全世帯訪問活動は7月22日～31日までの期間、社協職員436人が参加し実施した。今回は「救急医療情報キット」のチラシを持参しながら、熱中症予防も呼びかけ訪問活動を行った。訪問活動では住民の声を直に聞かせてもらい、民生委員児童委員、自治会長、町内会長とも連携を図りながら要援護者の把握に努めた。困難な事例等は関係機関に繋げることができた。

全戸訪問終了後、救急医療情報キットの情報更新に職員が出向き、その後情報提供として民生委員、市役所担当に報告をした。

② 小ネットワーク活動

小地域ごとに自治会、民生委員児童委員と連携し、要援護世帯の状況を把握し、見守り活動を行った。また、安心電話を取り付ける際には、近隣協力員にも参加してもらい、小ネット会議を開催したケースもある。課題としては個人情報保護

の問題、地域の見守り協力員の高齢化など挙げられるが、住民が安心して生活が出来るよう地域住民による支え合い・たすけあい活動を積極的に展開したい。

③ 地域安全活動

社協は北秋田警察署と地域安全に関する覚書を締結しており、交通事故や犯罪のない地域をめざして地域見守りネットワークに取り組んでいる。公用車にステッカーを貼り、犯罪や事故の発生抑止を図っている。平成25年度は5件の行方不明者等の捜査にも協力をした。

④ 「2%クラブ」活動

社協では非常災害時の対応として、21年度から「2%クラブ」を設立し、緊急時に備えて積立を行っており、今まで被災地への職員派遣費用など緊急時に支出している。

平成25年度の積立額は1,850,000円で総額9,863,817円となっている。

⑤ たすけあい資金貸付事業

年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
たかのす	貸付件数(件)	38	42	37	26
	貸付金額(円)	1,565,000	1,845,000	1,458,000	1,020,000
	償還金額(円)	1,505,000	1,590,000	1,944,500	1,175,000
あいかわ	貸付件数(件)	13	12	13	16
	貸付金額(円)	460,000	415,000	480,000	670,000
	償還金額(円)	558,000	431,000	561,000	763,000
もりよし	貸付件数(件)	7	9	11	7
	貸付金額(円)	245,000	460,000	570,000	300,000
	償還金額(円)	462,000	235,000	484,000	526,000
あ に	貸付件数(件)	5	4	3	4
	貸付金額(円)	140,000	200,000	122,000	62,000
	償還金額(円)	351,000	255,000	152,000	67,000
合 計	貸付件数(件)	63	67	64	53
	貸付金額(円)	2,410,000	2,920,000	2,630,000	2,052,000
	償還金額(円)	2,876,000	2,511,000	3,141,500	2,531,000

貸付件数、金額とも昨年度に比べ減少したものの、相談の内容は複合的な問題を抱えたケースが多かった。また、生活保護世帯においては緊急的な事態が発生し申し込むケースも増えている。借入を繰り返す方が多くなっているが、他からの借入が困難な住民にとっては必要な貸付事業である。長期滞納者には定期的に償還指導に努めた結果、償還につながっている。

⑥ 生活福祉資金貸付事業

地区名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
たかのす	貸付件数(件)	9	4	3	0
	貸付金額(円)	2,026,497	1,539,000	1,160,000	0
あいかわ	貸付件数(件)	3	3	0	0
	貸付金額(円)	1,872,000	4,940,000	0	0
もりよし	貸付件数(件)	0	0	0	0
	貸付金額(円)	0	0	0	0
あ に	貸付件数(件)	1	0	0	0
	貸付金額(円)	900,000	0	0	0
合 計	貸付件数(件)	13	7	3	0
	貸付金額(円)	4,798,497	6,479,000	1,160,000	0

平成25年度は貸付実績がなかったため、今後事業の周知が必要である。長期滞納者に対しては民生委員児童委員との連携により世帯状況を把握しながら償還指導を継続して行っていきたい。

⑦ 金銭管理事業

地区名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
たかのす	利用人員	43	41	39	36
あいかわ		1	1	3	3
もりよし		4	9	4	3
あ に		3	4	4	4
合 計		51	55	50	46

安心して暮らし続けるためには、認知症の方等の金銭管理も重要な生活支援であることから、社協独自で取り組んでいる。社協の介護サービスを利用している方を対象に日常的に必要なと思われる範囲の現金及び証書等の管理、保管を行っており、遠方に住む親族等の負担軽減につながっている。しかし今後は、地域福祉権利擁護事業への移行を進めていきたい。

⑧ 新生児へのほほえみ祝い金贈呈事業

地区名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
たかのす	贈呈者数	104	102	95	96
あいかわ		29	26	35	33
もりよし		31	24	29	28
あ に		11	4	6	8
合 計		175	156	165	165

共同募金の配分金により民生委員児童委員、自治会長を通してお祝い金を添えて友愛訪問を行っており喜ばれている。また、共同募金の用途についても広く周

知できる機会となっている。

⑨ 高齢者世帯防火査察指導

地区名	実施日	対象世帯
たかのす	平成26年 1月29日～30日	15世帯
	平成26年 3月 6日～ 7日	16世帯
もりよし	平成25年12月12日	7世帯
あ に	平成25年11月 5日	10世帯

一人暮らし高齢者等を消防署員と社協職員が訪問し、火気の管理、配線、避難路、火災警報器について点検した。高齢者の防火に対する意識が高まり、今後も継続して実施したい。

⑩ 手作り福祉弁当配布事業

・開催日 平成25年11月21日

もりよし地区で実施している。75才以上の一人暮らし高齢者を対象に140食を届けた。婦人会、民生委員児童委員、各小学校、ボランティアの協力を得ながら配布している。対象である一人暮らしの方からは大変喜ばれた。

⑪ 介護用品貸出事業

事業所名		年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
たかのす	年間利用者数		26	26	37	35
あいかわ			31	21	21	27
もりよし			11	6	4	6
あ に			13	8	11	10
ケアタウン			372	472	620	668
合計			453	533	693	746

介護保険対象外の方への貸し出しとして有効に活用されており、緊急的な要望にも応えることができている。車イスや吸引器の貸出を希望する方が多い。今後も介護用品を安全に使っていただくためのメンテナンスをしっかりと行いたい。

⑫ 心配ごと相談事業

相談内容		年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
相談件数	電話		94	97	73	67
	来所		167	129	106	137
	訪問		24	26	2	2
合計			285件	252件	181件	206件

・開設日 月～金まで年間231日

相談件数は微増している。一方、相談機関が多様化・専門化している中で内容を問わず、相談を受け付ける機関としてのニーズは継続している。

⑬ 無料法律相談

開設日	会場	相談者	担当弁護士
平成25年 4月26日	北秋田市地域福祉センター	7人	木元弁護士
〃 6月26日	〃	7人	木元弁護士
〃 8月28日	〃	8人	木元弁護士
〃 10月23日	〃	7人	木元弁護士
〃 12月18日	〃	6人	木元弁護士
平成26年 2月25日	〃	6人	木元弁護士

法律相談は、引き続きニーズが高く、70代の相談が最多である。

⑭ 心配ごと相談員合同研修会

開催日	テーマ	講師
平成26年2月25日	一年の相談を振り返って 事例検討など	木元慎一弁護士

相談に適切に対応するため、研修会を開催し実際の相談事例を踏まえ知識を深めた。

6、在宅福祉活動の推進

① 外出支援サービス事業

地区名	年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	利用実人員	延べ利用者数				
たかのす	利用実人員		210	206	185	157
	延べ利用者数		4,602	4,637	4,536	4,344
あいかわ	利用実人員		125	82	57	62
	延べ利用者数		1,660	1,082	1,169	1,263
もりよし	利用実人員		46	39	35	34
	延べ利用者数		1,216	745	849	456
あ に	利用実人員		4	3	3	1
	延べ利用者数		173	162	117	2
もろび苑	利用実人員		5	6	4	7
	延べ利用者数		65	25	46	37
合 計	利用実人員		390	336	284	261
	延べ利用者数		7,716	6,651	6,717	6,102

職員に交通安全遵守を促すため、交通安全研修、車輛の適切な管理、職員の健康管理など徹底して取り組んできた。

医療機関への通院が利用の大半だが、通院時間が重複してしまうため対応の調整が今後の課題である。

② 食の自立支援事業

地区名	年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	利用実人員	延べ食数				
たかのす	利用実人員		66	72	65	66
	延べ食数		7,171	8,792	8,177	8,631
あいかわ	利用実人員		22	20	23	25
	延べ食数		1,044	1,414	1,678	2,302
もりよし	利用実人員		27	24	21	18
	延べ食数		2,732	2,370	2,573	2,173
あ に	利用実人員		45	38	41	39
	延べ食数		1,406	1,573	1,981	2,014
合 計	利用実人員		160	154	150	148
	延べ食数		12,353	14,149	14,409	15,120

実人員は前年対比で変化はないが、一人あたりの利用回数が増えており、前年対比延べ約700食の増加となっている。365日の夕食の食事の提供と安否確認の目的で実施されており、利用者からは大変喜ばれている。厨房のスペースによる1日あたりの食数が限界となっており、今後の増加に伴う対応と配達時間の調整が課題となっている。

③ 緊急通報システム事業（あんしん電話）

地区名		年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		設置世帯数					
たかのす				279	290	277	270
あいかわ				67	63	66	65
もりよし				63	51	43	40
あ に				73	66	64	64
合 計				482	470	450	439

一人暮らしの高齢者にとっては、設置することにより安心感につながっている。定期的な電池交換等のメンテナンスや状況確認を計画的に行う必要があると同時に、耐用年数が経過した機種 of 交換が必要と思われる。

④ 家族介護用品支給事業

地区名		年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		利用実人員					
たかのす	利用実人員			42	56	63	48
	延べ人員			322	420	434	363
あいかわ	利用実人員			14	10	11	12
	延べ人員			101	66	66	69
もりよし	利用実人員			7	5	8	6
	延べ人員			42	39	32	44
あ に	利用実人員			8	9	7	8
	延べ人員			68	66	56	46
合 計	利用実人員			71	80	89	74
	延べ人員			533	591	588	522

対象者は要介護状態や所得により制限されているが、在宅で介護されている方にとっては精神的、経済的負担の軽減につながっている。毎月1回の配達時には介護者の状況確認にも努めている。

⑤ 福祉の雪事業

地区名		年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		登録世帯数					
たかのす	登録世帯数			662	711	747	512
	延利用回数			3,513	4,453	6,157	4,317
あいかわ	登録世帯数			149	184	196	155
	延利用回数			1,477	2,189	2,861	1,988
もりよし	登録世帯数			215	239	264	231
	延利用回数			1,932	2,211	2,803	1,709
あ に	登録世帯数			202	232	247	186
	延利用回数			1,844	2,501	2,977	2,677
合 計	登録世帯数			1,228	1,366	1,454	1,084
	延利用回数			8,766	11,354	14,798	10,691

住民にも浸透しており、除雪が困難な高齢者や障がい者世帯の安心感の確保に

つながっている。所得制限を設けたことや積雪が少なかったため、利用者、延べ利用回数とも前年度の7割ほどの利用実績となった。所得制限により対象外となった世帯から、除排雪業者の照会相談があり適切に対応した。

7、介護保険事業

要介護状態になっても、施設や在宅において、適切な介護サービスを利用することにより、穏やかで安心した生活が送れるよう常に利用者の立場にたった相談援助や質の高いサービスの提供に努めた。利用者の方の尊厳を大切にし、一人ひとりの心の寄り添うきめ細かな介護に取り組んでいる。

介護職員の人材確保が急務になっており、今年度は新卒・既卒を対象とした採用試験を2回実施した。福祉の就職総合フェアなどに参加するなど、今後もハローワークや秋田県福祉保健人材センターなど、各関係機関と連携をとりながら人材確保推進に対応し、ホームページなどを利用した求人の情報提供に努めたい。

① 居宅介護支援事業

事業所名		年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
たかのす	利用実人員		560	582	616	629
	延利用者		5,133	5,291	5,171	5,285
あいかわ	利用実人員		202	202	199	197
	延利用者		1,516	1,557	1,633	1,813
もりよし	利用実人員		173	183	198	208
	延利用者		1,555	1,555	1,685	1,916
あ に	利用実人員		77	142	143	194
	延利用者		884	1,099	1,155	1,388
ケアタウン	利用実人員		208	200	180	193
	延利用者		1,571	1,600	1,675	1,626
合 計	利用実人員		1,220	1,309	1,336	1,421
	延利用者		10,659	11,102	11,319	12,028

介護相談では迅速かつ丁寧な対応に努めている。介護だけではなく、さまざまな問題に関わることも多いため、適切な対応ができるよう研修を行っている。年々相談件数も増えているため、市をはじめ常に関係機関、介護事業所とも連携をとるように努めている。今後の需要も見込まれることから、専門職の確保や資格取得の推奨も行っている。

② 訪問介護事業

事業所名		年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
たかのす	利用実人員		322	298	292	269
	延利用者		49,295	44,301	42,996	43,283
あいかわ	利用実人員		116	111	105	124
	延利用者		9,363	10,389	10,568	10,822
もりよし	利用実人員		80	80	81	79
	延利用者		11,292	10,952	9,795	10,086
あ に	利用実人員		53	75	72	54
	延利用者		11,647	12,905	11,845	9,722
もろび苑	利用実人員		31	37	42	35
	延利用者		10,759	10,736	10,404	10,815
合 計	利用実人員		602	601	592	561
	延利用者		92,356	89,283	85,608	84,728

年々、利用実人員、延べ利用者数が減少している。その要因のひとつは、施設整備が進み重度の在宅生活の利用者が減少していることが考えられる。在宅での生活を維持するために、最前線で利用者を支える事業であることを踏まえて今後も満足いただけるサービスの提供に努めるとともに、職員研修に力を入れ質の向上を図りたい。

③ 通所介護事業

事業所名		年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
地域福祉センター	利用実人員		179	177	168	165
	延利用者		11,235	11,363	11,166	11,506
つづれこ	利用実人員		106	101	100	100
	延利用者		7,280	7,458	7,227	7,343
もりよし	利用実人員		153	136	130	143
	延利用者		9,871	9,333	8,963	9,787
もろび苑	利用実人員		59	57	51	48
	延利用者		2,896	3,036	2,770	2,761
ケアタウン	利用実人員		154	151	148	106
	延利用者		10,760	10,908	9,601	6,186
サポートハウス	利用実人員		112	115	110	108
	延利用者		7,288	7,660	8,007	7,811
合 計	利用実人員		763	737	707	670
	延利用者		49,330	49,758	47,734	45,394

通所介護事業も全体的に利用実人員、延べ利用者数が年々減少している。今後も利用者の方一人ひとりに満足いただけるようなサービスの提供に努めていきたい。そのためにも、施設毎の特色を打ち出していき利用者の選択の幅を広げたい。

④ 訪問入浴介護事業

事業所名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
たかのす	利用実人員	76	76	67	70
	延利用者	1,785	2,058	1,951	1,947
もりよし	利用実人員	41	29	35	31
	延利用者	996	1,014	1,058	951
合 計	利用実人員	117	105	102	101
	延利用者	2,781	3,072	3,009	2,898

平成23年度をピークに延べ利用者数が減っている。安心かつ丁寧なサービスを心がけ、利用者の方に満足いただけるよう努めている。

⑤ 福祉用具販売事業

地区名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
北秋田市 全域	販売件数	181	197	164	262

各事業所のケアマネジャーとも連携を取りながら、利用者の自立に向けて、心身の状況や住宅環境を見極め迅速な対応に努めた結果、昨年度より件数は増えている。今後も最新の情報を把握しながら適切な用具を提供していきたい。

⑥ 認知症対応型共同生活介護事業

事業所名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
グループホーム ふなみ	利用実人員	26	23	23	20
	延利用者	6,515	6,535	6,492	6,533
つづれこ	利用実人員	8	11	10	10
	延利用者	2,898	2,910	2,900	2,902
グループホーム あいかわ	利用実人員	10	9	11	14
	延利用者	3,285	3,286	3,270	3,225
合 計	利用実人員	44	43	44	44
	延利用者	12,698	12,731	12,662	12,660

ほぼ満室の状態での推移している。地域との交流を大切にしながら安心して穏やかに過ごしていただけるように努めた。

⑦ 小規模多機能型居宅介護事業

事業所名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
だんらんハウス	利用実人員	30	22	26	29
	延利用者	4,332	6,790	7,079	6,274

事業所の特色を活かした柔軟なサービスの対応に努めながら、地域住民との交流事業を積極的に取り入れた。併設のグループホームに3名が入居された。併設

した施設へ入居することによって、大きな生活の変化もなく穏やかに過ごすことができている。

⑧ 外部サービス利用型特定施設事業

事業所名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
もろび苑	利用実人員	31	37	42	35
	延利用者	10,759	10,736	10,404	10,815

利用者はもろび苑入所者に限られているため、市より措置される入所者の介護度によって収益は変動する。

⑨ 介護老人保健施設

事業所名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
ケアタウン たかのす	利用実人員	119	114	117	120
	延利用者	29,074	29,158	29,099	29,179

各事業所からの情報収集をすみやかに行うことにより、利用者の入退所を円滑に進め、年間を通してほぼ満床状態を確保することができた。

⑩ 通所リハビリテーション事業

事業所名		年度	
		平成24年度	平成25年度
ケアタウン たかのす	利用実人員	45	73
	延利用者	444	3,881

5月から毎日型のサービス提供に移行したことで、利用者が増加した。通所型のリハビリテーション事業の特徴を理解していただきながら事業の周知を図っていきたい。

⑪ 短期入所生活介護事業

事業所名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
ケアタウン たかのす	利用実人員	193	196	171	163
	延利用者	10,603	10,404	10,368	10,279

冬期間利用された方々が家庭に戻られた後の利用者確保ができなく、延べ利用者数の減少となった。事前申請を柔軟に受け入れる体制の整備と、空き部屋の情報提供をすみやかに行うことで、年度の後半は安定したサービス提供につながった。

⑫ 福祉用具貸与事業

事業所名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
補助器具 センター	利用実人員	468	484	512	523
	延利用者	3,419	3,548	3,583	3,722

利用者が増加傾向にあり、運営面でも安定してきている。今後は、広報活動などのPRにより施設の有効活用を図っていききたい。

8、指定管理施設運営事業

市の条例及び関係法令に基づき、平成25年度は市から指定管理者の指定を受けている9施設の管理運営を行った。質の高いサービスかつ安全安心なサービスを提供すると共にサービスの拡大、施設の有効活用や地域交流を図りながら効率的運営かつ管理運営費の削減に努めた。しかし、施設の老朽化に伴う修理費の増加や一部器具・備品の更新など課題も在り、今後も北秋田市と連携をとりながら適切な施設の管理に努めたい。

① 養護老人ホームもろび苑

事業所名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
養護老人 ホーム	利用実人員	51	59	60	54
	延利用者	17,921	18,019	17,567	18,021

退所や入院が少なかったため、指定管理料の大きな変動はなかった。今後も施設の適切な維持管理に努めたい。

② サポートハウスたかのす・森吉生活支援ハウス

事業所名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
サポートハウス たかのす	利用実人員	24	21	26	21
	延利用者	7,216	7,203	6,591	6,557
	地域交流事業	47	50	32	28
森吉生活 支援ハウス	利用実人員	24	27	25	23
	延利用者	7,250	7,106	7,193	6,493
合 計	利用実人員	48	48	51	44
	延利用者	14,466	14,309	13,784	13,050

入居申請の減により満室を確保することが困難になってきている。関係事業所等への情報提供により利用者の確保を図っていききたい。自立高齢者の生活支援施設だが、入居者が高齢化してきており、介護の必要な利用者が増加してきている。今後も、利用者の安全確保に努めたい。

<地域交流事業>

施設の有効活用の試みとして児童の宿泊体験を行った。今後も家族の交流、緊急時の利用などと併せて、利用者の確保につなげていきたい。

③ 老人憩いの家

施設名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
ことぶき荘	会館日数	254	254	308	307
	延利用者	2,308	2,260	2,242	2,251

施設の利用に関しては安定して推移している。

9、児童福祉の推進

① 児童館の運営

児童館名		年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		幼児	児童				
鷹巣 児童館	延べ 利用者	幼児		515	683	447	492
		児童		17,962	17,895	19,107	20,270
		大人		837	830	749	712
太田 児童館	延べ 利用者	幼児		448	589	489	400
		児童		8,296	8,163	7,786	7,534
		大人		749	862	786	743
鷹巣中央 児童館	延べ 利用者	幼児		634	783	651	578
		児童		13,889	14,088	13,836	12,698
		大人		981	1,265	1,091	1,013
綴子 児童館	延べ 利用者	幼児		413	543	462	369
		児童		11,283	10,266	11,305	10,983
		大人		722	859	872	723
鷹巣西 児童館	延べ 利用者	幼児		852	433	456	374
		児童		9,372	11,352	11,975	11,096
		大人		899	630	642	628
合 計	延べ 利用者	幼児		2,862	3,031	2,505	2,213
		児童		60,802	61,764	64,009	62,581
		大人		4,188	4,446	4,140	3,819

日々の遊びの充実の他、各児童館では特色ある活動を実施し、さまざまな活動を通して健全育成に努めた。学校、家庭、関係機関との連携を継続し、安全安心に過ごせる居場所づくりに努めた。各関係機関との共催で世代間交流を実施したり、施設訪問を行い交流を深めることができた。今後も一人ひとりの子供たちの背景を理解し、個別援助に努めていきたい。

② 子育てサポートハウス「わんぱあく」の運営

事業所名		年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		つどいの広場	一時預かり				
わん ぱあく	延べ 利用者	つどいの広場		7,740	8,737	7,945	6,189
		一時預かり		1,007	1,030	1,144	1,058
		病児保育		12	6	4	2
		病後児保育		21	4	6	10
		電話相談		—	19	31	21
		来所相談		187	137	124	114
		見学者		1,711	2,395	2,175	2,398
合計				10,678	12,328	11,429	9,792

集いの広場では、子育て家族の憩いの場、交流の場として気軽に集える環境づくりを行い、個々の子育て世帯に寄り添う支援に努めた。

また、北秋田市の子育て支援センター等と連携し、各種子育て支援に関する情報提供を行ったり、育児サークルを開催して子育てを頑張る母親同士が子育ての喜びや楽しさを知る機会をつくった。

一時預かりでは、子育て中の母親たちの育児軽減をサポートする機能を発揮し、多くの方に利用いただいた。年度後半は保育園待機児童の受入を行い就労世帯の支援に努めた。

今後も北秋田市の子育て支援施設として、全域の子育て世帯に事業を知っていただけるようPR活動をしていきたい。

③ 児童デイサービス事業「もろびこども園」の運営

事業所名		年度			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
もろびこども園	児童発達支援			959	1,084
	放課後等デイサービス	1,092	1,066	146	200
	保育所等訪問支援			9	0

就学前乳幼児への「児童発達支援」、学齢児への「放課後等デイサービス」、保育所等への「保育所等訪問支援」を行った。

児童発達支援では、通園児童の発達状況に合わせた個別指導、集団活動、体験型プログラムを実施した。翌年度就学予定児童に対しては、就学を意識した指導と保護者への学習に心がけた。地域交流では、老人クラブと毎月継続した交流を行った。行事の際には民生委員児童委員や秋田北鷹高校生など多くのボランティアの協力を得て実施した。

放課後等デイサービス、保育所等訪問支援は平成24年度から実施した事業であるが、児童・保護者のニーズに対応して実施した。

相談支援も導入された事から、通園児童個々のニーズに対応する個別支援計画を作成し、ニーズに可能な限り応えることができるよう努めたい。また、保育園等関係機関との連携を密にし情報交換を行い、児童の療育指導に反映させていきたい。

④ 相談支援事業

事業所名	年度		平成24年度	平成25年度
北秋田市社協 相談支援事業所	特定	利用実人員	23	40
		延利用者	68	173
	一般	利用実人員	0	30
		延利用者	0	179
もろびこども園	特定	利用実人員	2	12
		延利用者	4	44
合 計		利用実人員	25	82
		延利用者	72	396

平成25年4月から障害者総合支援法が施行され、障がい者福祉の増進が更に図られることとなった。それに伴い、障害福祉サービス等を利用する障害者の有する能力や環境などを評価し、利用者の希望する生活が出来るように支援するため、利用者の意向に基づくサービス等利用計画案が適切に作成されるために、平成25年度は職員体制を確立して対応した。その結果、大幅な利用者の増加につながった。

10、共同募金運動への協力

赤い羽根共同募金運動

地区名	年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
目標額			11,116,000	12,082,000	12,000,000	12,000,000
達成率			102.1%	98.7%	98.2%	97.4%
たかのす	募金額		5,402,495	5,547,846	5,447,500	5,351,932
あいかわ			2,417,413	2,628,191	2,679,874	2,707,436
もりよし			2,414,480	2,477,027	2,466,152	2,429,167
あ に			1,116,471	1,266,771	1,188,247	1,195,252
合 計			11,350,859	11,919,835	11,781,773	11,683,787

目標額12,000,000円に対して97.4%の実績。残念ながら前年度と比較して97,986円の募金額の減となった。今後も様々な事業を通して、赤い羽根共同募金が自分の町を良くする活動に使われていることを周知します。「公募によるボランティア・市民活動応援事業」として、公募による助成申請、プレゼンテーションによる公開審査を実施し、使い途の透明性を図りながら地域の課題の発見や他のグループの活動を知り交流することで、地域の活性化を図ることができた。